



## 小金井市教育委員会生涯学習課と環境政策課に

9月12日要望書を提出しました。 <以下要旨>

「世界の異常高温 2022 年まで続く」衝撃的な最新予測研究論文が 8 月 14 日に発表されました。(8 月 15 日 A F P)。英科学誌ネイチャーに掲載されたこの論文は「人為的な地球温暖化と自然要因による地球表面温度の上昇の相乗効果により、今後 5 年間は異常な高気温が続くと予測される。気候変動といわゆる自然変動のダブルパンチは、海洋表層水での『異常な温暖化現象』の発生確率を 2 倍以上高め、ハリケーンや台風の危険な温床を形成する。人為的変動（大気中に放出された、多量の温室効果ガス（主に二酸化炭素））に起因する、人為的な気候変動）が生じており、今日では自然変動を圧倒する恐れもある。」と指摘しています。

温暖化を進行させる人為的森林破壊は生物の生息をも破壊し、生物多様性を急速に減少させています。温暖化は生物多様性と密接に結びついているのです。

「小金井市地球温暖化対策地域推進計画」には、『緑化の推進は、夏場の日差しを遮ることや地下水及び湧水の保全にもつながり、ヒートアイランド現象の抑制による省エネ効果を生み出すことから重要』とあります。

小金井市でも「地球温暖化対策や生物多様性保全に配慮した水と緑のネットワークづくり」を推進し、玉川上水・小金井桜整備活用実施計画による樹木伐採への配慮を要望致します。

## 植 物 観 察 (5)



台風 24 号からひと月、玉川上水の木々にはその傷跡が痛々しく残っています。それでも、台風を耐えた植物たちは秋の装いを見せてつつあります。

ススキの穂は垂れ下がり、エビヅルの葉は他に先駆けて紅葉しています。可愛らしい朱色の丸い実をぶら下げているのはカラスウリです。ノブドウにも、青や水色、紫、ピンクに白と鮮やかな色の実がなり、見頃を迎えています。イイギリやムク、マユミ、クサギなどの木々も、溢れんばかりにたくさんの実をつけました。冬に向けて、鳥たちがこれらの実を食べにやってくることでしょう。

つい先日まで、スズムシの音がうるさいほどに聴こえていたのに、いつのまにか消えてしまいました。短い秋が終われば、すぐに冬がやってきます。忙しく変化する玉川上水の季節を、楽しみながら観察しています。 < O.Y. >

玉川上水

# こだま通信



2018 年 11 月 1 日 No.5

発行：小金井玉川上水の自然を守る会 代表：加藤嘉六

E-mail：kodama2107kodama@yahoo.co.jp

https://kodama201803.jimdo.com

## 伐採の目印は赤テープ！

桜並木を柵内に形成するため、既存の樹木が大量に伐採されます。

2016.11.8 日撮影 皆伐地区（関野橋～梶野橋間）の中間地点で、すでに伐採された樹木

